

日本語研修コース

深見兼孝

2020年度は、予定していた研修生のほとんどが新型コロナの影響で、来日を次年度に回したり、直接配置に変更したりしたので、後期のみの開設となった。

修了者

第70期（2020年11月～2021年3月）[1名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学研究科
CHOMUNORWIRA, TAFARA	チョム	ジンバブエ	数学教育	広島大学人文社会科学 学研究科

講師一覧

専任 フェレイロ・ポセ・ダマソ 深見兼孝 松山由布子
非常勤 佐藤道雄 杉本雅恵 中川正弘 山中康子 渡辺久美

概要

2020年11月16日（火）オリエンテーション(K211)
2020年11月17日（水）開講式(K308)
授業期間 2020年11月18日（木）～2021年3月31日（水）
休暇 2020年12月25日（金）～2021年1月5日（火）
特別講義 2021年3月29日（月）～2021年3月30日（火）
2021年3月31日（水）スピーチ／修了式(K308)
試験 2020年12月14日（金）、2021年2月5日（金）、2021年3月26日（金）
見学 2021年3月12日（金） 広島市

日本語教育部門：日本語・日本事情

2020年4月～2021年3月

田村泰男

授業科目一覧

・東広島キャンパス 1コマ（2時限）90分

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語入門A-1	13		30	
日本語入門A-2		12		27
日本語入門B-1	13		27	
日本語入門B-2		12		24
日本語初級A-1	15		11	
日本語初級A-2		13		9
日本語初級B-1	15		10	
日本語初級B-2		12		9
日本語中級A-1	18			
日本語中級A-2		17		
日本語中級B-1	13			
日本語中級B-2		13		
日本語中級C-1			8	
日本語中級C-2				9
日本語中級D-1			3	
日本語中級D-2				3
日本語中上級A-1	23			
日本語中上級A-2		27		
日本語中上級B-1	13			
日本語中上級B-2		12		
日本語中上級C-1			23	
日本語中上級C-2				18
日本語中上級D-1			22	
日本語中上級D-2				18

* 共創学科生は「教養教育ベーシック日本語」として受講

日本語・日本事情科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語上級聴解A		13		
日本語上級聴解B				12
日本語上級分析A	13			

日本語上級分析B			10	
論文作成法A		12		
論文作成法B				15
日本語上級語彙A	8			
日本語上級語彙B			15	
日本語上級映像A		4		
日本語上級映像B				6
ビジネス日本語A	15			
ビジネス日本語B			8	
日本語・日本文化特別研究A-1			4	
日本語・日本文化特別研究A-2				4
日本語・日本文化特別研究B-1	6			
日本語・日本文化特別研究B-2		6		

・霞キャンパス

教養教育ベーシック日本語科目 (学部生対象) 週2コマ/8週/1単位	開設ターム			
	受講登録者数 (非正規受講の大学院生・研究生を含む)			
	1	2	3	4
日本語入門1	1		5	
日本語入門2		1		8
日本語初級1	2		5	
日本語初級2		2		4

日本語教育部門:留學生関係科目

2020年4月～2021年3月

田村泰男

特別聴講学生日本語科目 (交換留学生対象の一般科目) 週2コマ/8週/2単位	開設ターム 受講登録者数			
	1	2	3	4
Introductory Japanese A-1			3	
Introductory Japanese A-2				2
Introductory Japanese B-1			1	
Introductory Japanese B-2				7
Elementary Japanese A-1	0		2	
Elementary Japanese A-2		0		2
Elementary Japanese B-1	0		1	
Elementary Japanese B-2		0		1
Intermediate Japanese A-1			7	
Intermediate Japanese A-2				6
Intermediate Japanese B-1			7	
Intermediate Japanese B-2				7
Intermediate Japanese C-1			4	
Intermediate Japanese C-2				4
Intermediate Japanese D-1	15			
Intermediate Japanese D-2		9		
Intermediate Japanese E-1	19			
Intermediate Japanese E-2		12		
Intermediate Japanese F-1	12			
Intermediate Japanese F-2		10		
Upper-Intermediate Japanese A-1			24	
Upper-Intermediate Japanese A-2				20
Upper-Intermediate Japanese B-1			19	
Upper-Intermediate Japanese B-2				17
Upper-Intermediate Japanese C-1			25	
Upper-Intermediate Japanese C-2				24
Upper-Intermediate Japanese D-1	34			
Upper-Intermediate Japanese D-2		25		
Upper-Intermediate Japanese E-1	34			
Upper-Intermediate Japanese E-2		20		
Upper-Intermediate Japanese F-1	35			
Upper-Intermediate Japanese F-2		23		
Advanced Japanese Listening A-1	22		6	
Advanced Japanese Listening A-2	22		6	
Advanced Japanese Listening B-1				

Advanced Japanese Listening B-2				
Advanced Japanese Analysis A-1		14		
Advanced Japanese Analysis A-2		14		
Advanced Japanese Analysis B-1				10
Advanced Japanese Analysis B-2				10
Academic Writing A-1	23			
Academic Writing A-2	23			
Academic Writing B-1			10	
Academic Writing B-2			10	
Advanced Japanese Vocabulary A-1		14		
Advanced Japanese Vocabulary A-2		14		
Advanced Japanese Vocabulary B-1				11
Advanced Japanese Vocabulary B-2				11
Advanced Japanese Cinema A-1	30			
Advanced Japanese Cinema A-2	30			
Advanced Japanese Cinema B-1			3	
Advanced Japanese Cinema B-2			3	
Business Japanese A-1		12		
Business Japanese A-2		12		
Business Japanese B-1				8
Business Japanese B-2				8

第 35 期 (2019 - 2020)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、森戸国際高等教育学院（2010年に旧留学生センターから国際センターへ、その後2018年に森戸国際高等教育学院へ改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生、そして大学間協定に基づき教育学部、文学部、総合科学部が大学推薦により受け入れている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象とし、森戸国際高等教育学院の四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されており、(1) 全学の正規学部留学生向けの「日本語・日本事情」の枠内で開設されている授業から選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と森戸国際高等教育学院にレポートを提出する。森戸国際高等教育学院では毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

2019年3月に中川正弘教授が停年退職されたため、2019年前期からは、2018年10月に着任した名塩征史講師が日本語・日本文化研修プログラム実施委員会の委員となった。

<受け入れ学生の概要>

第35期は大使館推薦森戸国際高等教育学院受け入れのインド、ミャンマー、タイ、アゼルバイジャンからの学生それぞれ1名、部局間協定に基づく文学部受け入れのインドネシアからの学生、総合科学部受け入れのセルビアからの学生が各1名の計6名でプログラムを実施した。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

2019年末から、海外での流行が報道されていた新型コロナウイルス感染症であったが、2020年2月にクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号内で多数の感染者が出たことが大き

く報道されると、本プログラムにもその影響が及ぶことになった。幸い、19年度後期のプログラムは一般の授業とともに問題なくほぼ終了していたが、毎年実施していたしまなみ海道から四国松山への見学旅行は、準備が整っていたにもかかわらず、大事をとって中止することとなった。

その後、日本でも事態がさらに深刻に受け止められるようになると、20年度前期の授業は対面授業を取りやめオンラインで実施、20年度前期に予定されていた見学は全て取りやめ、「日本語・日本文化特別研究 II」は、特別講義のみで行われることとなった。本プログラムの修了式も中止となったが、成果発表会はなんとかオンラインで実施することができた。

<特別講義等>

2019年度（第35期）に実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10月		
4日	開講式 オリエンテーション	石原
11日	広島見学1（広島城・平和公園）	石原・名塩
18日	特別講義「言語学入門」	石原
11月		
1日	特別講義「日本語と文体 I」	中川
8日	広島見学2（現代美術館/放射線影響研究所）	石原
15日	特別講義「日本はひとつか？」	河西
24日	抹茶体験	伊藤（文学部）
29日	宮島見学	石原
12月		
6日	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
13日	特別講義「日常生活の中の記号」	名塩
20日	マツダ見学	石原
1月		
10日	特別講義「音声学・音韻論1」	石原
14日	特別講義「会話の観察と分析：入門編」	名塩
24日	特別講義「音声学・音韻論2」	石原

31日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
3月		
6日	研修レポート構想発表	石原・名塩
26-27日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー（中止）	
4月		
24日	特別講義「古事記と出雲神話1」	石原
5月		
1日	特別講義「古事記と出雲神話2」	石原
8日	特別講義「古事記と出雲神話3」	石原
15日	特別講義「語用論、Modality、なわ張り理論1」	石原
22日	特別講義「語用論、Modality、なわ張り理論2」	石原
29日	特別講義「明治までの経済」	石原
6月		
5日	特別講義「コミュニケーション行動の意味機能」	名塩
12日	特別講義「文学史1」	松山
19日	特別講義「文学史2」	松山
26日	特別講義「広島歴史と平和」	小宮山
7月		
3日	特別講義「認知心理学と日本語学習」	柳本
10日	特別講義「『異なるもの』とのコミュニケーション」	名塩
17日	特別講義「プレゼンテーションのコツを学ぶ」	名塩
31日	特別講義「10分プレゼンテーション 『広島県〇〇市ってこんなところ』」	名塩
	松江・出雲見学旅行（中止）	
8月		
7日	研修レポート中間発表	石原・名塩
9月		
11日	研修成果発表会	石原・名塩
	修了式（中止）	

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

恒松直美・堀田泰司

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995-96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム)は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学96大学及び2コンソーシアム(University Studies Abroad Consortium, USAC及びUniversity Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構)と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生在が本学で学べるように各学部で英語科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留學生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル・インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化の施策を地域行政と協同で取り組むことにより留學生が学術知を実践知として生かす場を構築してきた。また、「グローバル・リーダーシッププロジェクト: 大学と地域の協同」と題した実践研究グループプロジェクトにも挑戦し、留學生の自助支援や地域社会との連携を學生が自主的に取り組む挑戦も開始した。また、海外へ留学を希望する本学の在籍學生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用した国際セミナーも開催している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP(University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した學生の単位互換をより公平、且つ正確に行うためUMAPが開発したUCTS(UMAP単位互換方式,UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAPが新たに開発したUSCO(UMAP Student Connection Online)事業に

も積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織であり、各部局代表委員並びにその他委員により構成される短期留学交流部会が、2018 年度まで全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討してきた。2019 年度は HUSA プログラム・サブワーキンググループが形成され、2020 年度よりグローバル化推進部会において運営することとされた。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、森戸国際高等教育学院の教員2名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

2020 年度、2021 年度は、新型コロナウイルスの影響により、全学的にオンラインによる授業の開講が積極的に推進された。広島大学で運用する ICT 機器を活用し、オンライン学習支援システム Bb9 や Microsoft TEAMS 等による遠隔授業やオンデマンド授業が導入され、授業が開講された。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ **受け入れ期間**：一学期または一学年
- ・ **募集人員**：約 100
- ・ **募集方法**：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ **応募資格**：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (3) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ **選考方法**：短期留学交流部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ **学生の身分と受け入れ方法**：学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規則）として受け入れる、受入れ手続きはグローバル化推進グループが取りまとめて行ってきた。2021 年度より、「特別研究学生」としての受入れを希望する場合は、所属希望部局に直接応募する体制とした。
- ・ **授業料等の不徴収**：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合

意する必要がある)。

- ・ **カリキュラム**：HUSA プログラム留学生は、英語及び日本語で開講される本学の科目を幅広く履修可能である。日本語授業は初級・中級・上級の5レベルがあり日本事情の科目も開講されている。日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部で実施されている。また、HUSA プログラム留学生向け「グローバル・インターンシップ」も開講し、ビジネスレベルの日本語を実践の場で生かす場も提供している。
- ・ **受け入れ体制の整備**：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 学生サポーターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(5) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、UMAPの単位互換方式であるUCTSを導入し、単位互換を促進する。

II. 2020-2021年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2020-2021年度は18名の留学生を受け入れた。2名が2020年度秋学期の1学期間参加し、その2名はオンライン参加であった。16名が1年間滞在し、うちオンライン参加は2名であった。新型コロナウイルスの影響により、早期帰国をした留学生は1名となった。

III. 2020-2021年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2020年度募集要項は、2020年1月に各協定大学へ送信され、3月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4月に本学の選考委員会によってHUSAプログラム参加者が正式に決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、「特別聴講学生願」を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、オンラインによる申請手続きと申請者のデータ管理の改善を図ってきている。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂しプログラムホームページにて公開した。また、ホームページで

HUSA プログラム,広島大学,日本での生活について詳細な情報を提供するとともに,「よくある質問」を掲載し,留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には,電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ サポーターオリエンテーション

学生サポーターに対し,事前にオリエンテーションを行い,サポーターとしての全般的及び具体的な支援活動の内容について説明した。

◆ 見学・体験学習

2021 年度は,新型コロナウイルスの影響により,体験学習は中止となった。例年は,2 月には,「グローバル・インターンシップ」を受講する留学生インターンが担当教員の指導のもと呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し,地域行政の協力を得て国際交流企画に挑戦している。訪問者 12,000 人と言われる商業祭において地域住民と留学生の交流の場を留学生の企画により実現する貴重な国際的体験学習の場となっている。また,秋学期は,例年,10 月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い,日本文化の体験学習の機会を提供している。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会のしくみについて学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ 授業科目の開設状況

これまで,短期プログラム用の開設科目として日本語と英語による科目が開講されてきたが,広島大学への留学生が増加する中,英語による全学の開設科目も増加してきた。現在は特化した開設科目の枠を超え,全学の英語による授業を受講可能なシステムへと移行しつつある。日本語科目も,短期交換留学プログラム用の特設科目として開講されてきた経緯があり,2003 年度から初級・中級を特設科目とし,上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生との合同による受講としてきた。現在は,広島大学への留学生が増加し日本語の受講者が増加する状況において,学部聴講生及び3+1 プログラム留学生も合同で受講するしくみに移行している。

◆ 「グローバルインターンシップ」

2003 年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来,毎年インターンとして地域企業に2 週間派遣してきた。2005 年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し,インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010 年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き,留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また,2010 年度後期からは社会体験者講話に基づ

いた PBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

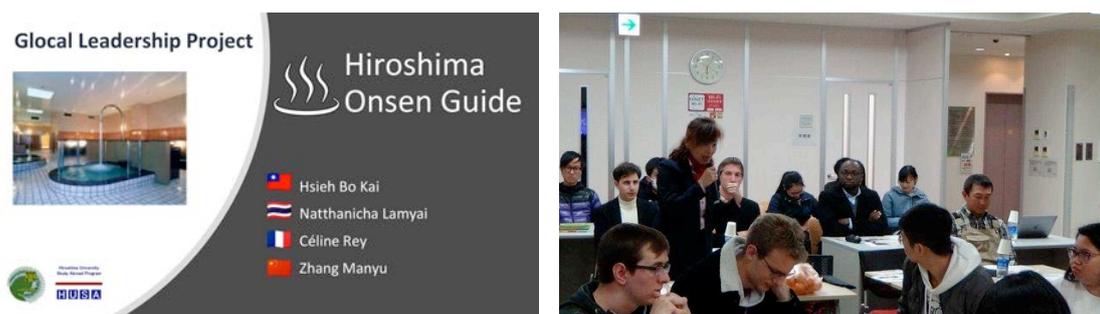
2012 年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の観念的知識を地域と協働して地域社会で実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは留学生に多角的な学びをもたらしている。2019 年度より「グローバル・インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル・インターンシップⅡ：実習」と題して開講し、地域行政との連携をより強化し地域国際化を促進するプロジェクト型インターンシップを発展させている。



◆ 多国籍留学生による地域と協働する実践研究グループ・プロジェクト

2015 年度より「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」を実施し、多国籍チームを構成して地域と協働する実践プロジェクトに取り組んでいる。2015-2016 年度は「多文化共生への貢献」、2016-2017 年度は「自助支援」、2017-2018 年度は「ホームシック対策」、2018-2019 年度は「大学における異文化適応と再適応の支援」、2019-2020 年度は「留学生の自助支援～広島新発見～」をテーマとして取り組んだ。地域行政関係者、市議会、学内関係者、学校関係者の参加を得て地域公開の中間発表会・最終発表会を開催して協議する場を持ち、プロジェクトへのフィードバックを得ている。「広島大学紹介ビデオ撮影に挑む1」、「HUSA 留学生おすすめリスト」、「留学準備・到着後ガイドブック」、など自助支援のプロジェクト成果の発表を行っている。留学生の各出身大学における留学のサポートシステムの発表は、他大学の支援システムを学ぶ機会となっている。セミナーでは、「カルチャーショックとは」、「体験学習・協同学習の意義」、「留学からの帰国準備：逆カルチャーショック」（恒松担当）などの異文化適応とプロジェクト学習の意義を理解するための講義も行っている。

- ◆ **オンラインによる「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」**
2020年1月より,新型コロナウイルス感染を防止するための施策が大学で講じられてきた。2020年度春学期より,授業は,状況に応じて対面とオンライン方式について大学からの指示のもと実施している。多国籍留学生による実践プロジェクトである「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働」(2019-2020年度「留学生の自助支援～広島新発見～」)も3月からはオンラインによる実践へと移行した。中間発表会(2020年4月開催),最終発表会(2020年7月開催)はすべてオンライン(Microsoft TEAMS)で開催し,毎年のように学内関係者,学内学生,地域行政関係者の参加を得,貴重なフィードバックを得た。「西条温泉ガイド」,「コロナ禍における留学生の生活」,「西条の中古店」,「西条での生活ガイド：食事制限」など留学生が完成したプロジェクトは,留学生の自助支援に役立つべく,HUSAプログラムホームページに掲載してある。2020-2021年度は,新型コロナ禍において実践プロジェクトの実行が困難であることに鑑み,プロジェクトは実施しないこととした。



- ◆ **文化交流支援活動**

9月に来日した直後に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に渡って行っており,本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や日本文化理解のためのグループ・ワーク,クラブ紹介,HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学の学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み,学生間の交流を促進し,本学での生活に早く慣れるよう企画した。また,留学生を支援するサポーターを,国際交流ボランティア,広島大学電子掲示板を通して募集し,国際交流に関心の高い学生を採用し,充実した支援の提供に努めている。2020年9月のオリエンテーションはオンラインで実施した。

- ◆ **地域貢献**

2003年から2006年度まで,東広島商工会議所より,国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり,フランス・韓国(2003),アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004),ドイツ(2005),タイ(2006)からの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し,母国の文化・習

慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011年度より「グローバル化支援インターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習の企画や、地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画した。2014年からは「グローバル・インターンシップ」として留学生が日本の地域社会と連携し協働する力を育成するプロジェクト型インターンシップを発展させてきている。広島県立日彰館高等学校による「日彰館高校グローバル人材育成プログラム」では、HUSAプログラム留学生が2014年度より「おもてなしホームステイ」に参加し、おもてなしプラン「国際交流行事」（恒松担当）では、2015年度より、留学生によるスピーチ発表や高校生・教職員・留学生の全員が参加する異文化インタラクションの場を構築している。2020年度は、地域中学校・小学校や地域住民からも参加を得て、200名を超える国際交流会をオンラインで開催した。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014年5月にはHUSA フェイスブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいてHUSAプログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラムの改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布、回収し、結果をまとめ、プログラムの改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流部会において報告し、改善のための示唆を得ている。

IV. 2020-2021 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、2020年1月上旬に応募者の選考を行い、2020年1月下旬のグローバル化推進部会で52名の派遣が承認された。3-4月には協定大学への申請手続きを行ったが、新型コロナウイルスの影響により、渡航の2か月前に行われた渡航可

否判断で、2020年度は渡航を伴う派遣はすべて中止となった。代替策として、派遣先大学からオンライン授業の提供がある場合は留学とみなすこととし、12名がこれを受講した。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ1学期または概ね1年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996年後期から開始され、2021年3月現在、台湾、中国、香港、インド、インドネシア、大韓民国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ブラジル、メキシコ、トルコ、カナダ、アメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランド、オーストリア、リトアニア、フィンランド、フランス、ドイツ、オランダ、ロシア、スペイン、スウェーデン、ポーランド、英国、コロンビアにある96の協定大学から交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されているUSACやUMAP等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、コスタリカ、イタリア、チリ等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、留学生を受け入れてきている。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金：** 日本学生支援機構による海外留学支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- ・ **現地コーディネーターのアシスタント：** 協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流：** 留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活

の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

グローバル化推進グループへ例年 11 月末頃までに提出する。

5. 面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 12 月の最終授業日の翌日に面接試験を行ってきた。試験は、広島大学 HUSA ワーキンググループの委員による 1 グループ 2~3 名程度の審査員によって実施し、審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等について評価を行ってきた。2020 年度より、留学目的・目標の明確さ及び実現性および外国生活への適応力について指導教員が確認することし、面接試験に代えている。

6. 選考委員会の実施

(イ) 例年 1 月上旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施してきた。主に学生の語学能力、面接試験結果、学業成績、留学志望校を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し、選考及び推薦を行ってきた。2020 年度より、審議はグローバル化推進部会で行われることとなった。例年同様、主に学生の語学能力、学業成績、留学志望校、指導教員の所見等を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し、選考及び推薦を行った。

V. 2020-2021 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2020 年度の短期交換留学生派遣に関しては、58 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス、スペイン、韓国、インドネシア、フィリピン、ニュージーランド、中国、にある 37 の協定大学及びコンソーシアム・プログラムの USAC を通じて

アメリカの大学へ,UMAP を通じてフィリピンの大学へ派遣した。2020 年度の短期交換留学生派遣に関しては,52 名の派遣が承認され,協定大学への申請手続きを行ったが,新型コロナウイルスの影響により,渡航の2 か月前に行われた渡航可否判断で,2020 年度は渡航を伴う派遣はすべて中止となった。代替策として,派遣先大学からオンライン授業の提供がある場合は大学として留学とみなすこととし,12 名がこれを受講した。(アメリカ1 名,イギリス3 名,フィンランド3 名,中国2 名,韓国1 名,フィリピン1 名,マレーシア1 名)。

派遣国は,欧米だけでなく,アジア諸国への派遣も拡大しているが,全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり,今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また,本学では,協定大学が開講する超短期(1 学期未満)プログラムへの留学も選考,派遣しており,2020 年度は,5 大学(韓国2 校,ロシア2 校,台湾1 校)へ合計18 名を派遣した。(すべてオンライン)派遣規模は,年々拡大しており,受入れ超過傾向にある協定大学への通常の1 学期または1 年間の派遣を含め,今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動 : 2020 年度は,毎年 5-6 月に実施する留学ウィーク並びに説明会,そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え,多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び留学アドバイザーによる留学相談デスクを設置した。新型コロナ禍に対応するため,オンラインによる留学相談も実施した。その結果,協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は,いつでも情報収集し,留学相談できるようになっている。

留学前の情報提供と留学計画の促進 : 例年,派遣が決定した本学の学生に対し2 度(4 月と7 月)に渡るオリエンテーションを実施しており,留学に関する一般的な情報と共に,協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き,協定校においても継続的な交流活動が行われている。また,留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で,UMAP 学習計画書をオリエンテーションで配布し,留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義 : 2019 年度も,派遣留学を促進するため,すでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は,INU ネットワークを利用し,アメリカの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の

教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。2013年5月には、本学の担当教員が、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（Asian Academic Credits, 以下AACs）の導入を提案し、国際理事会にて承認された。

AACsの概念とは、以下の通りである。

1 UCTS=38~48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13~16 時間の授業時間数 (academic hour)が含まれる。

ASEAN+3の13か国政府間でAACsの概念を活用したアジア地域の成績証明・単位互換の枠組の構築が2016年より検討を重ね、AACsは、2018年11月に開催されたASEAN3教育大臣会議において正式に承認された。AACsを新たなUCTSの基本理念として導入することにより、UMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され学生交流の促進が期待できる。アジア共通の単位互換制度の構築により、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することが見込まれる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないため、今後、さらなる開発が必要である。現在、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、同様の単位互換の概念の導入が検討されている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2020年

- 4月 *広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020
「グローバルリーダーシッププロジェクト」会議 (恒松)
- 5月 *広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会出席 (恒松)
*広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020
「グローバルリーダーシッププロジェクト」会議 (恒松) ・中間発表会
- 6月 *広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020
「グローバルリーダーシッププロジェクト」会議 (恒松)

- *“Challenges and Responses to COVID-19 in Higher Education: Perspectives from Japan,” IAU (International Association of Universities, 国際大学協会) 第3回世界大会 (国立大学協会国際交流委員会専門委員) (オンライン) (堀田)
 - 7月 *広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020
「グローバルリーダーシッププロジェクト」最終発表会 (恒松)
 - 8月 *「日彰館高校グローバル人材育成プログラム120
吉舎おもてなしプラン国際交流行事」会議 (恒松)
 - 9月 *Summer Institute on International Education, Japan (SIIEJ) (2020) “The Impact of COVID-19 and the Future of International Education” 「新型コロナ禍と国際教育の将来像」参加 (恒松)
 - *Online Experiential Leadership Learning Program 体験型リーダーシッププログラム～
The Leadership Challenge Workshop参加 (恒松)
 - *第8回多文化共生研究会「外国人労働者問題を考える ―技能実習制度の現状と課題」,
「フィリピンにルーツを持つ子供たちからみる日本 ―フィリピン移動史」参加 (恒松)
 - *第25回留学生教育学会年次大会参加,JAISE (Japan Association for International Student Education) (恒松)
 - *Multinational Understanding Webinar, “Cross-Cultural Interpersonal Skills Building” (多文化共生国際セミナー)参加 (恒松)
 - * HUSAプログラム2020-2021オリエンテーション (オンライン)
 - 11月 *「地域と協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー開催
(「グローバルインターンシップ」) (広島大学森戸国際高等教育学院) (恒松)
 - *広島県立日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 - 吉舎おもてなしプラン
「広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」企画・司会 (恒松)
 - *The 12th Asian Conference on Education (ACE 2020) IAFOR (International Academic Forum),
“Multinational Students Culturally Versatile Adjustment and Readjustment Experiences through Study Abroad in Japan” 研究発表 (恒松)
 - *広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会 (恒松)
 - 12月 *第9回多文化共生研究会「やさしい日本語」「東広島市の国際化推進プラン」参加 (恒松)
- 2021年**
- 3月 *広島大学附属高等学校 英語による授業への参加検討会議 (恒松)
 - *HUSA「グローバルインターンシップ」実習フィールドサイト見学・会議 (呉市倉橋町)
 - *第10回 多文化共生研究会「コロナ禍の外国人留学生」「コロナ禍の外国人労働者」
(広島大学東千田キャンパス) 参加 (恒松)

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）
中国語・中国文化特別研修
華語・台湾文化特別研修

荒見 泰史
小宮山 道夫

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）

本プログラムは、母語に漢字を使用する国及び地域にあたる漢字圏と、それ以外の非漢字圏の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台間そして日本と諸外国との交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

2020(令和2)年度は、昨年度末に引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な流行を受けて、夏期プログラムは完全に中止とし冬期のみ、中華人民共和国、台湾、非漢字圏の3プログラムを本学初の試みとしてオンラインで実施することとした。

夏期（台湾）	7月4日～7月19日(16日間)	中止
（中国）	7月19日～8月3日(16日間)	中止
（非漢字圏）	8月17日～9月1日(16日間)	中止
冬期（台湾）	1月12日～1月23日(10日間)	6名（オンライン）
（中国）	1月25日～2月5日(10日間)	148名（オンライン）
（非漢字圏）	2月8日～2月19日(10日間)	17名（オンライン）

今期のオンライン研修は前述の通り本学で初めて実施したオンラインの海外受入事業と位置付くため、実施にあたり行った条件整備について、以下に記録に留めることとする。

(1) 研修費の検討および規則改正

オンライン研修の実施については例年よりも早く協定校等に通知して募集を開始する必要があるとの本田義央教授の判断のもと、2020年10月13日から具体的な検討を開始した。研修の実施にあたっては、前提として「広島大学森戸国際高等教育学院日本語・日本文化特別研修生受入れ規則」を改正する必要がある。従来は研修費60,000円のスタンダードコースと80,000円のアドバンスコースの2種があるのみで、オンラ

イン研修は想定していなかったためである。そして規則改正は学長決裁であり、それ以前に佐藤利行理事・森戸国際高等教育学院長と森戸国際高等教育学院教職員の了承を得る必要があった。逆算していくと10月30日に開催が予定されていた森戸国際高等教育学院連絡協議会において説明を行えるよう準備を進める必要があり、少なくとも研修費の設定を根拠とともに示す必要があった。

これまでの対面で実施する研修の場合は、学外研修で使用する大型バスのチャーター費用や各種入場料と施設利用費、教材費や学外講師の謝金などの経費を入れても募集人数で赤字にはならないようにとの配慮で料金設定をしており、他大学と比べても低価格を維持していた。10年来の経験の蓄積があるため研修生の応募状況などが予見できる上に、参加者に増減があったとしてもある程度の調整が可能であった。しかしオンラインで開催するとなると、どう予測を立てれば良いかも見当がつかなかった。

オンラインであれば学外研修費用が不要となるので経費全体で考えれば6割近く削減が可能であることは容易に予測がついたが、学外研修に変わるオンラインツアーを考えねばならず、その動画撮影のための資材準備や取材経費がどの程度必要になるかを1から組み立てる必要があった。また定評のある折り紙、けん玉、風呂敷といった日本文化の授業用教材をどのように研修生に供給するかも課題であった。当初は研修教材パックのようなものを作り事前発送することを考えた。プログラム提供のためには必要な条件整備でもあるし、何より教材が日本から送られてくれば研修生たちのオンライン研修に向かう気分の高揚感も自ずと異なるだろうと想像できたからである。しかし海外の輸送事情に詳しい関係者の助言によれば確実に荷物が届く保障は無いことがわかった。また、教材の事前送付と研修後の修了証書や証明書等の送付の輸送経費を試算すると、一人あたりアジアで約12,000円、欧州で約15,000円、モンゴル・エジプトで約18,000円と地域によりばらつきもあり、3万円程度の研修費を徴収しなければ実施出来ないことがわかった。このため教材の事前発送は諦めることとし、教材は各国の事情のゆるす範囲で準備してもらうこととせざるを得なかった。

協議会前日の29日までには25,000円と30,000円の2コースにする案まで絞り込んだが決定力に欠けていたため、協議会においてはオンライン実施にあたり規則改正などの条件整備を行う方向性とその詳細については委任いただくことの上で了承を得ることに留めた。続いて法規担当や財務などとの協議を事務的に進めてもらいながら研修費の検討を継続し、11月12日には何とか2万円の研修費でプログラムを提供できるように経費を見直し、原案を作成した。しかしその一方で、研修生の立場として考えたときにオンライン研修で2万円を払おうという気持ちになれるかどうか再考すべきではないかと本田教授より指摘があり、試行的な要素が大きいためまずは最小限の内容に留めて1万

円で設定し、評判が良ければ内容を充実させて研修費も上げる方向で検討しなおすこととなった。それまではオンライン研修を実現させるために必要な条件整備を開催者の論理で検討していたが、大きく発想を転換させることになった。このため研修内容を更に精撰し、学外講師の起用も最小限に抑えることで経費を削るとともに、各コース単独での黒字化は諦めて冬期研修全体で赤字にならないければ良いという考え方に変更した。そうして11月20日にはオンラインスタンダードコース10,000円、オンラインアドバンスコース25,000円の2コースの追加を提案する方向に変更し、24日朝までに経費計算を詰め終えて最終案とした。この提案はその週に行われた森戸国際高等教育学院の運営会議（メール審議）にかけられて無事に通過し、その後学内手続きを経て令和2年12月15日規則第227号「広島大学森戸国際高等教育学院日本語・日本文化特別研修生受入れ規則の一部を改正する規則」が制定され即日施行された。

広島大学森戸国際高等教育学院日本語・日本文化特別研修生受入れ規則の一部を改正する規則を次のように定める。

令和2年12月15日

広島大学長 越智 光夫

令和2年12月15日規則第227号

広島大学森戸国際高等教育学院日本語・日本文化特別研修生受入れ規則の一部を改正する規則

広島大学森戸国際高等教育学院日本語・日本文化特別研修生受入れ規則（平成22年6月22日規則第114号）の一部について、下表左欄（「改正前」欄）を同表右欄（「改正後」欄）のように改正する。

改正前	改正後
(略) (研修料及び徴収方法) 第6条 研修料は、研修の内容及び期間により次のとおりとする。 (1) スタンダードコース60,000円 (2) アドバンスコース80,000円	(略) (研修料及び徴収方法) 第6条 同左 (1) 〃 (2) 〃 (3) <u>オンラインスタンダードコース</u> <u>10,000円</u> (4) <u>オンラインアドバンスコース</u> <u>25,000円</u>

<p>2 研修料は、研修開始までに徴収するものとする。</p> <p>3 既納の研修料は、返還しない。 (略)</p>	<p>2 同左</p> <p>3 //</p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p style="text-align: center;"><u>この規則は、令和2年12月15日から施行する。</u></p>
---	---

※ 下線部分は、改正箇所を示す。

(制定理由)

研修の内容に、オンラインスタンダードコース及びオンラインアドバンスコースを加えることに伴う所要の規定の整備を行うこととするため。

ところで研修費に関してはその徴収方法にも課題があった。対面であれば研修費は日本円の現金で受領すればすむ話であり、日本円に換金していないあるいはATMを過信して現金を持ち合わせていないトラブルは屢々あったものの、滞在中に解決できる問題であった。しかしオンラインとなると研修開始までに確実に研修費の徴収ができるかどうか、その手続きに懸念があった。クレジットカード決済などの方法がとれば問題ないのだろうが、本学ではまだ一部の入試に導入されているのみで、海外送金に頼るほかはなかった。海外送金の場合は銀行手数料が送金ルートにより区々のため、入金額には誤差が生じる。例えば中国コースの場合、148件中26件(17.6%)に誤入金があり、最大4,500円の過徴収と-2,500円の不足とが発生した。それらの再徴収などの調整に関わる事務負担が必要であった。

(2) 日程の決定

例年懸案となるのは日程の調整である。太陰太陽暦に基づいている国と地域において2021年の春節が2月12日となるため、これに台湾と中国の日程があたらないよう1月12日から2月5日までの間に2コースを実施することとした。対面の際には1コースが15～6日間あるため入出国の航空便の事情と研修生の宿泊施設として利用する学生寮の空き状況などを勘案しながら日程を考案する必要があり、年によっては2つのコースを重ねて実施しなければならない場合も発生したが、今期についてはオンラインで平日のみのため確実に2週間ごとでコースを区切ることができ、春節にかかることも無かった。このため日程の設定に関しては混乱が生じなかったことは幸いであった。

(3) 研修内容の調整

前述の経費計算をもとに研修内容を調整した。基本的には外部講師による授業を最小限として、1日3コマを2週間、平日のみの10日間、合計30コマ分とオンデマンド授業2コマ分の総計32コマ分のプログラムを組むこととした。対面の場合は1日4コマで14日間（日本滞在16日間）合計56コマ分のプログラムがあるので42.8%分の内容を削減したことになる。また逆に言えば予算を83.3～87.5%削減しながら、内容は42.8%減に留めて研修の質を確保したと言えるのかもしれない。以下に3コース分の日程表を示す。対面であれば約4日間分を占めていた学外研修が大きく削減されたのみで、日本語および日本文化に関する講義と、本研修の最大の特色である学生交流・相互学習の時間は可能な限り確保することができたと自負している。

研修実施にあたっては、以前より協力を頂いてきた学内の教員および森戸国際高等教育学院の専任教員に多大なご負担を頂いた。ここに改めてお礼を申し上げたい。

2020年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修(台湾)日程

日	曜日	二コマ	三コマ	四コマ
		10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05
1月12日	火	開講式・ オリエンテーション	「わかる」から「できる」へ つなぐ日本語 コミュニケーション 迫田 久美子	学生交流・相互学習
1月13日	水	風呂敷文化 小倉 亜紗美	東広島の歴史と文化 本田 義央	東広島市歴史文化研修
1月14日	木	原爆と広島平和記念都市 小宮山 道夫	日本語音声学・音韻論 石原 淳也	学生交流・相互学習
1月15日	金	折り紙文化 ハーレー静代	現代日本語の 受け身と使役 深見 兼孝	広島市歴史文化平和研修
1月18日	月	日本の新聞とニュース 本田 義央	「日本史」を疑う？ 河西 英通	学生交流・相互学習
1月19日	火	宮島の歴史と文化 荒見 泰史	教室では習わない日本語 佐藤 暢治	留学説明会
1月20日	水	日本語のイントネーション とアクセント 高橋 恵利子	コロナ禍の中で読む日本 近代文学 FERREIRO POSSE DAMASO	学生交流・相互学習
1月21日	木	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	世界遺産宮島 歴史文化研修
1月22日	金	日本語の助詞 名塩 征史	柔道を通して 日本文化を学ぶ 出口 達也	学生交流・相互学習

1月23日	土	日本の絵画 金田 晋	けん玉文化 小宮山 道夫	成果発表会・修了式
-------	---	---------------	-----------------	-----------

2020年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修(中国)日程

日	曜日	二コマ	三コマ	四コマ
		10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05
1月25日	月	開講式・ オリエンテーション	「日本史」を疑う？ 河西 英通	学生交流・相互学習
1月26日	火	現代日本語の 受け身と使役 深見 兼孝	教室では習わない日本語 佐藤 暢治 (上級日本語)	学生交流・相互学習
			2000miles, 200 個、20 人、2 匹 本田義央 (中・初級日本語)	
1月27日	水	日本語のイントネーション とアクセント 高橋 恵利子	東広島の歴史と文化 本田 義央	東広島市歴史文化研修
1月28日	木	けん玉文化 小宮山 道夫	日本語音声学・音韻論 石原 淳也	学生交流・相互学習
1月29日	金	折り紙文化 ハーレー静代	柔道を通して日本文化を 学ぶ 出口 達也	広島市歴史文化平和研修
2月1日	月	日本の絵画 金田 晋	「わかる」から「できる」へ つなぐ日本語 コミュニケーション 迫田 久美子	学生交流・相互学習
2月2日	火	日本人の名前と歴史 小宮山 道夫	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	留学説明会
2月3日	水	風呂敷文化 小倉 亜紗美	コロナ禍の中で読む 日本近代文学 FERREIRO POSSE DAMASO	学生交流・相互学習
2月4日	木	日本語の助詞 名塩 征史	宮島の歴史と文化 荒見 泰史	世界遺産宮島 歴史文化研修
2月5日	金	季語を通して学ぶ 日本の文化 高永 茂	日本の文学と芸術 松山 由布子	成果発表会・修了式

2020年度冬期広島大学日本語・日本文化特別研修(非漢字圏)日程

日	曜日	二コマ	三コマ	四コマ
		10:30-12:00	12:50-14:20	14:35-16:05
2月8日	月	開講式・ オリエンテーション	「日本史」を疑う？ 河西 英通	学生交流・相互学習

2月9日	火	現代日本語の 受け身と使役 深見 兼孝	日本語音声学・音韻論 石原 淳也	学生交流・相互学習
2月10日	水	日本語のイントネーション とアクセント 高橋 恵利子	日本の伝統スポーツと礼 渡部 和彦	東広島市歴史文化研修
2月11日	木	日本の絵画 金田 晋	風呂敷文化 小倉 亜紗美	学生交流・相互学習
2月12日	金	折り紙文化 ハーレー 静代	コロナ禍の中で読む 日本近代文学 FERREIRO POSSE DAMASO	広島市歴史文化平和研修
2月15日	月	「わかる」から「できる」へ つなぐ日本語 コミュニケーション 迫田 久美子	柔道を通して 日本文化を学ぶ 出口 達也	学生交流・相互学習
2月16日	火	日本の文学と芸術 松山 由布子	教室では習わない日本語 佐藤 暢治	留学説明会
2月17日	水	大学国際化・ 異文化間理解 恒松 直美	けん玉文化 小宮山 道夫	学生交流・相互学習
2月18日	木	日本語の助詞 名塩 征史	宮島の歴史と文化 荒見 泰史	世界遺産宮島 歴史文化研修
2月19日	金	日本の特別支援教育 崔 明福	日本語学習と認知心理学 柳本 大地	成果発表会・修了式

3コース共通 オンデマンド授業

佐藤 大規「総合博物館への招待」約2時間

百々 隆雄「日本アニメの基礎知識」約2時間

(4) 学外研修への工夫と準備した撮影機材

対面で行っていた学外研修、広島大学のある東広島市の「酒都」西条の歴史と文化を伝える東広島市歴史文化研修、平和教育を軸に広島市内の名所を巡る広島市歴史文化平和研修、日本の歴史と信仰そして観光の実態を体感させる世界遺産宮島歴史文化研修、古都京都を1泊2日の日程で味わう京都歴史文化研修は研修生たちにとっては大きな楽しみの一つであった。日頃の座学でたまったストレスを、体を動かし実物を間近に見ることによって発散させるとともに、広島や日本に対する理解を更に深め親しんでもらう貴重な機会である。オンライン研修の場合には、この学外研修をいかに現実に近づけて伝えるかが重要になってくる。

経費を考慮すれば京都研修は論外として（尤も検討初期には3万円程度の研修費でいかに京都研修を実施するかも考慮していた）学外研修も1、2か所に留めたいところで

あったが、広島及び広島大学を語る上で東広島（西条）、広島市、宮島の3か所は外しがたく、また1度撮影してしまえば3コースに利用できることを考えれば多少無理をしても実施したいと考えた。めざしたのはNHKの旅行番組「世界ふれあい街歩き」の世界観である。美しい映像、実際に自分自身が歩き回っているかのようなゆったりとした視線の変化と速度、自然な地域の人とのふれあいや会話の挿入がその番組の魅力的なポイントであった。これに少しでも近づけるために一人で歩きながらも撮影できるアクションカメラとして定評のあるGoPro HERO9を動画配信機材用のカメラとして採用した。中継で音声を伝えるためにはノイズリダクション機能があり外音を同時に聞き取ることのできる骨伝導ヘッドセットAfterShokz OpenCommを採用した。そして研修期間中の通信用にUQWiFiルーターの30日間レンタルと、撮影を山コースと海コースに分ける宮島の中継専用UQWiFiルーターの1日間レンタルを3コース分契約した。

詳細は別稿に譲るがオンデマンド用の撮影は失敗も多かったものの比較的上手くゆき、ライブ配信はネット情報で通信速度が最も早いと評判だったUQWiFiルーターを過信したため思っていたほどの中継はできなかった。大都市圏と異なり電波があまり強くなく、特に屋内ではほぼ通信が途絶えたことは酒蔵をめぐる東広島市歴史文化研修では致命的であった。結局中継に関しては個人のスマホのテザリングでしのぐ他は無かった。この点は反省すべき事項が多い。

しかし中継の内容自体は現場の学生たちの一生懸命な伝え方や、オンラインで参加しながら臨機応変にチャットで補足説明をしたり映り具合を現場に伝えてくれたりした学生および本田教授の支援によって概ね研修生たちから好評を得ることができた。オンデマンド配信については画質が良かったこともあって広島の美しい景色を堪能できた早く実際に行ってみたくなったと喜ぶコメントを研修生たちから受ける事ができた。撮影時間の倍以上の時間をかけて編集をした甲斐があったというものである。21年度の研修にこのノウハウを生かすことができることも考えれば、設備投資分の成果はひとまず回収できたのでは無いかと思われる。

(5) メディア取材

珍しいオンライン研修ということもあって、プレスリリースを行ったわけではなかったが、今期の研修はメディアで取り上げられることとなった。

1月27日の東広島市歴史文化研修にはブロック紙である地元新聞社の中国新聞社東広島総局の記者が同行し、タブレットやスマホを駆使しながら広大生たちが画面の向こうにいる中国人留学生たちに西条の歴史や酒蔵通りの町並みなどを紹介する様子取材した。これは台湾組の研修の時にたまたま西条鶴酒造さんで取材中の記者と遭遇した縁

で実現したものである。その内容は1月30日付朝刊の26面呉・東広島地域版に「画面越しに西条の酒蔵案内 広島大准教授ら、中国の学生向けに講座」としてカラー写真入りの2段分の記事として掲載された。

また、外部講師であり地元でも有名な日本折り紙協会認定講師「折紙師範」でもあるハーレー静代氏による「折り紙文化」の1月29日の授業には、ハーレー氏と懇意の地元ケーブル放送局であるKAMONケーブルテレビが取材に訪れ、オンラインでの授業風景と研修を受けた中国人留学生のコメントを撮っていった。その映像は「広島大学の留学生がオンラインで折り紙体験」としてニュース枠で何度か放映された。

(6) 研修生たちの事後評価

研修生たちの事後アンケートによれば、台湾組の場合は研修費10,000円について「まったく高くない」が2件で40%、「あまり高くない」が3件で60%、「どちらともいえない」、「少し高い」、「非常に高い」はいずれも0件であった。全回答者が高くないと評価したことがわかる。また研修を受ける前に「研修費用がいくら以上だったら申込みをやめていましたか。申込みをとどまる分岐点となる最高額の金額を日本円で教えて下さい。」との設問に対しては平均で21,700円、最高額30,000円、最低額18,500円、中央値は20,000円であった。一方で研修を受けた後の気持ちとして「研修費用は最大いくらまで出しても良かったと思えますか。最高額の金額を日本円で教えて下さい。」との設問に対しては、平均で19,000円、最高額が25,000円、最低額が15,000円、中央値は20,000円であった。このことから研修費と研修内容のバランスから言えば今期の研修は非常に高く評価してもらえたと言えよう。

中国組の場合も同様に研修費は「まったく高くない」が4件で5%、「あまり高くない」が54件で62%、「どちらともいえない」が19件で22%、「少し高い」が10件で11%、「非常に高い」は0件であった。回答者の3分の2の66%が高くないと評価したことがわかる。また研修を受ける前の評価に対しては平均で23,200円、最高額150,000円、最低額1,500円、中央値は17,500円以上の料金設定であれば参加しなかったと述べた。一方で研修を受けた後の気持ちとしては、平均で17,864円、最高額が30,000円、最低額が13,000円、中央値は15,000円を払っても良い研修だったと評価している。このことから中国組においても今期の研修は高く評価してもらえたと言えよう。

非漢字圏組の場合、研修費は「まったく高くない」が3件で21%、「あまり高くない」が6件で43%、「どちらともいえない」が3件で21%、「少し高い」が2件で14%、「非常に高い」は0件であった。中国組と同様に回答者の約3分の2の64%が高くな

いと評価したことがわかる。また研修を受ける前の評価については平均で 12,293 円、最高額 22,000 円、最低額 2,000 円、中央値は 11,000 円以上の料金設定であれば参加しなかったと述べた。最低額はおそらく 1 桁間違えて記入したものと思われる。一方で研修を受けた後の気持ちとしては、平均で 18,020 円、最高額が 100,000 円、最低額が 1,000 円、中央値は 13,000 円を払っても良い研修だったと評価した。最高額は「10 万円」と日本語で回答していたので恐らく本心なのであろう。最低額については研修費について「まったく高くない」とした者の回答であるためこちらは 1 桁間違えている可能性があるがこのままとしておく。

以上のことから研修費と研修内容のバランスから言えば今期の研修は 3 コースともに高く評価してもらえたと言えよう。一方で台湾、中国、非漢字圏の順で妥当な研修費の金額はそれぞれ 20,000 円、15,000 円、13,000 円と考えられており、同様にそれぞれ 20,000 円、17,500 円、11,000 円を超えると申し込みをとどまっていたことをみれば、オンライン研修の検討段階での研修費案 20,000 円をそのまま実施していたとしたら初のオンライン研修は失敗に終わっていた可能性が高かったことがわかった。本田教授の名采配に大いに救われた結果となった。

以上、本学初のオンライン海外受入事業としての試みとなったオンライン版の日本語・日本文化特別研修は成功裏に終えることができた。検討段階から様々な形で関わった教職員の皆様、授業を提供して下さった森戸国際高等教育学院をはじめとする学内の教員および広大マスターズの本学名誉教授の皆様、交流に積極的に参加してくれた学生の皆様、そして学外研修ための取材撮影や中継を快く引き受けてくださった西条の酒造メーカー各社、広島平和記念資料館のお陰である。そして勿論以下に述べる本学初のオンライン海外派遣事業であった中国語・中国文化特別研修での経験も参考にさせて頂いた。ここに改めて記してそれぞれに深く感謝申し上げる。

2. 中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として長く実施されてきた。また 2017 年度からは 3. 華語・台湾文化特別研修とともに、日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金支援対象プログラム「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。「東アジア展開力強化プログラム」の趣旨は、①広島大学の通常学期期間中に実施される外国語トライリンガル特定プログラム、中国文化論などの授業とあわせて現地で学ぶことにより、今日のアジア社会の背景にある歴史、文化、言語、思想、信仰などをより身近に理解する、②研修期間中の学生交流

を通じて若者間の人的ネットワークを構築する、③通常学期期間中の特定プログラムなどの授業と組み合わせることにより、継続的に指導を続け、将来的に中国、台湾などへの留学へと導くことが可能である、というものである。なお、本プログラムでは、成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」の単位を期間中の合計学習時間 30 時間あたり 1 単位に振り替えることができるようになっている。

2020 年度はコロナの影響で渡航が困難なことが予想されたため、オンラインで実施されることが決定された。ただ、学生たちへの周知も早くから行われたため、参加希望学生も比較的多く日本人学生 19 名が集まった。

プログラムは 9 月 14 日（月）から 9 月 25 日（金）の 2 週間の日程で行われた。午前中は首都師範大学教員による中国語の授業で、中国での実施と同じ北京時間 8:30（日本時間 9:30）から 12:00（日本時間 13:00）まで合計 10 日間行われ、午後には文化体験として「中国書法」、「中国剪纸（切り絵）」、「中国美術（中国画）」、「中国音楽」、「中国結（組紐）」の 5 種の体験型の授業が用意された。またオンラインによる学生交流として、広島大学に在学する中国語ネイティブ学生 18 名が参加して活発な交流が行われた。最終日には成果発表会をやはりオンラインで開催したが、ほとんどの学生が 5 分程度の発表を中国語で用意し、流暢な中国語で中国文化について調査した内容を報告した。

3. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として 2014 年度から実施されてきた。また、2. 中国語・中国文化特別研修と同様に、2017 年度からは日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金支援対象プログラム「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。例年、教員引率のもとに現地研修（天燈体験、寺院参拝、故宮博物院見学など）や、現地学生との交流会がほぼ毎日設定され、終了後には、学生には修了証と成績書が与えられる。この成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」の単位を期間中の合計学習時間 30 時間あたり 1 単位に振り替えることができるようになっている。

昨年度はコロナの影響により中止となったが、本年度はオンラインによる実施となった。ただ、台湾の協定大学からはオンラインによる華語の授業は提供できるとの回答があったが、オンラインでの実施となり、日本学生支援機構海外留学支援制度による奨学金支援を受けることができなかつたため、予算の関係上、華語の授業は TF（ティ칭ング・フェロー）の資格を持つ中国語ネイティブの広島大学大学院博士課程後期学生によるオンライン授業となった。これに、本学の李郁蕙准教授、国立政治大学中文系楊明璋教授と本学博士課程卒業生柯惟惟の 3 名から台湾文化に関する授業と現地紹介を計 10 時間提供していただ

き、これに学生たちの最終報告会を組み合わせることで台湾の特徴的な宗教文化、言語文化を学ぶプログラムを作り上げることができたのである。

プログラムは3月15日（月）～3月26日（金）の2週間の日程で行われた。午前中はTFによる華語の授業で、広島大学での授業実施時間と同じ日本時間8:45から12:00まで合計9日間行われ、午後には台湾の言語文化を学ぶ講義、またオンラインによる学生交流として、広島大学に在学する中国語ネイティブ学生7名が参加して交流が行われた。なお、参加学生16名には、国際室国際部グローバル化推進グループリーダー名での受講証明書が発行された。

研究・その他の活動（2020年4月～2021年3月）

1. 研究論文・著書・研究ノート

迫田久美子 「異なった学習環境における日本語使用の正確さと複雑さ—日本語学習者コーパス (I-JAS) の分析に基づいて—」, 『計量国語学』第32巻, 7号, 計量国語学会, 2020, pp.403-418

迫田久美子・李凌飛 「跨文化交际視閥下的汉语母语者日语习得研究—正确性和得体性的误用分析—」, 『東北亜外語研究』第37巻, 東北亜外語研究会, 2020, pp.3-7

迫田久美子 「日本語上手からコミュニケーション上手へ」, 『日本語学』, 第39巻, 3号, 2020, pp.28-41

恒松直美 「高校生と交換留学生の異文化間インタラクションの挑戦—異文化理解教育推進プログラム『吉舎おもてなしプラン』国際交流—」, 広島県立日彰館高等学校 『研究紀要』, 18号, 2021, pp. 51-64

松山由布子 「書評 鈴木耕太郎著『牛頭天王信仰の中世』」『説話文学研究』, 第55号, 2020, pp.186-189

松山由布子 『科学研究費補助金（若手研究）報告書 奥三河宗教文献資料集—陰陽道と民俗信仰—』, 2021年（松山由布子編・発行, 「はじめに」・祭文編・補論・「おわりに」執筆）

2. 学会発表

E. Oka, Y. Ishimoto, Y. Yagi, T. Nakamura, M. Asahara, K. Makekawa, T. Ogiso, H. Kooiso, K. Sakoda, N. Kibe, KOTONOHA: A Corpus Concordance System for Skewer-Searching NINJAL Corpora, Proceedings of the 12th Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2020), Marseille, 11-16 May 2020, On-line, pp.7077-7083

Tsunematsu, Naomi, “Multinational Students’ Culturally Versatile Adjustment and Readjustment Experiences through Study Abroad in Japan”, The Asian Conference on Education (ACE 2020), International Academic Forum (IAFOR), Tokyo, November 2, 2020

松山由布子 「近世東三河の陰陽師 小川大膳正の活動」日本民俗学会第 72 回年会, 2020
年 10 月 4 日～11 日 (オンライン開催)

3. 学術研究補助金

迫田久美子 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 課題番号 19KK0055, 「日
本語学習者コーパスによる教育と研究のグローバルネットワークの構築」
(2019-2023)

恒松直美 科学研究費補助金(C)「日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に
与える影響のホリスティックな研究」(2017-2020)

松山由布子 科学研究費補助金 (若手研究)「近世奥三河の民俗信仰に関する説話伝承研
究」(2020-2024)

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

迫田久美子 日本大学大学院文学研究科国文学専攻日本語教育コース 評価委員会委員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員

恒松直美 HUSA プログラム「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地
域の協働」

恒松直美 広島大学 ダイバーシティ研究センター協力教員

恒松直美 広島大学「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研
究拠点」メンバー

恒松直美 多文化共生研究会メンバー

恒松直美 広島県立日彰館高等学校 異文化理解教育推進委員

松山由布子 「東日新聞」2020 年 4 月 24 日 (第 25167 号) 1 面「コロナ禍苦境に“再
臨”疫病除け神・牛頭天王座像発見」コメント掲載

松山由布子 国立歴史民俗博物館平成 30 年度共同研究「奈良暦師吉川家文書を中心とす
る暦・陰陽道研究の史料基盤形成」共同研究員(2018-2020)

B. 学会活動

迫田久美子 韓国日語教育学会 (KAJE) 海外編集委員

恒松直美 日本総合学会 監事

松山由布子 説話・伝承学会 委員

C. 講演・ワークショップ等

迫田久美子 学習者コーパス完成記念国際シンポジウム「学習者コーパスから学ぶ日本語教育現場での指導 -I-JAS に見る文法習得と母語の影響-」, 国立国語研究所主催, オンライン, 2020年6月21日

迫田久美子 「2020年度日本語教師研修会」, 二葉中学校, 2020年7月29日

迫田久美子 講演会「言語教育と言語研究を繋ぐ」, 中国・湖南大学主催, オンライン, 2020年12月15日

迫田久美子 シンポジウム「コーパスに見る学習者の学び方—誤用はなぜ生まれるのか—」, 南アジア日本語教育フォーラム (JLESA) 主催, オンライン, 2021年1月17日

迫田久美子 日本語教師研修「学習者の心に火をつける教え方を目指して」, ドイツ VHS 日本語講師の会主催, オンライン, 2021年3月14日

恒松直美 “Meaning of Experiential Learning and Cooperative Learning” , 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020, 「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働～広島新発見～」中間発表会 (オンライン), 2020年5月28日

恒松直美 “Preparing to Return Home: Reverse Culture Shock,” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)2019-2020, 「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働～広島新発見～」最終発表会 (オンライン), 2020年7月16日

恒松直美 「日本文化理解グループ・ワーク」 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)オリエンテーション (オンライン), 2020年9月24日

恒松直美 「地域と協働で創る多文化共生社会」地域公開国際セミナー開催（オンライン）, 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバルインターンシップ」, 2020年11月13日

恒松直美 「日彰館高校と広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」(オンライン), 広島県立日彰館高等学校「グローバル人材育成プログラム 120 - 吉舎おもてなしプラン」, 2020年11月20日

恒松直美 「大学国際化・異文化間理解」講義（オンライン）, 2020年度冬季広島大学日本語日本文化特別研修（非漢字圏）, 2021年2月17日